新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

ＥＰＡ看護師候補者受入を続けるために

社会医療法人新潟臨港保健会

事務局長　塚本　亮介

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

病院概要

開　設：　１９５１（昭和２６）年５月

所在地：　新潟市東区桃山町1丁目１１４－３

診療科：　内科（消化器・呼吸器・循環器・腎臓）
外科（消化器・こう門）、整形外科、眼科、産婦人科
泌尿器科、皮膚科、歯科口腔外科、リハビリテーション科

病　床：　１９９床
（一般１５０　地域包括２５　医療療養２４）・透析３０

訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所

職員数：　４００名（うち看護師１７３名）

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

皆さんのＥＰＡ看護師・介護福祉士候補者

受入目的は何ですか？

インドネシア、フィリピン及びベトナムからの外国人看護師・介護福祉士候補者の受入れについて

日・インドネシア経済連携協定（平成20年7月1日発効）に基づき平成20年度から、日・フィリピン経済連携協定（平成20年12月11日発効）に基づき平成21年度から、日・ベトナム経済連携協定に基づく交換公文（平成24年6月17日発効）に基づき平成26年度から、年度ごとに、外国人看護師・介護福祉士候補者（以下「外国人候補者」という。）の受入れを実施してきており、累計受入れ人数は３国併せて5,600人を超えました。（平成30年８月末時点）

これら３国からの受入れは、看護・介護分野の労働力不足への対応として行うものではなく、相手国からの強い要望に基づき交渉した結果、経済活動の連携の強化の観点から実施するものです。

（厚生労働省ＨＰから抜粋）

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

本事業へ参画した経緯

- 組織の活性化と新事業への挑戦！
  - ✓ 停滞する組織の刺激となってほしい
  - ✓ 一生懸命頑張る姿＝原点を思い出してほしい
  - ✓ 相互扶助の精神をいつまでも維持してほしい

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

受入実績（ベトナム人看護師候補者）

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
受入	1	0	2	2	0	2	7
合格	0	1	0	2	2	-	5

2018年度まで5名受入。うち1名はベトナム人介護福祉士と結婚の為、退職し東京で新生活をスタート。

現在まで5名受入し、5名全員が国家試験合格。

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

受入準備（住居）

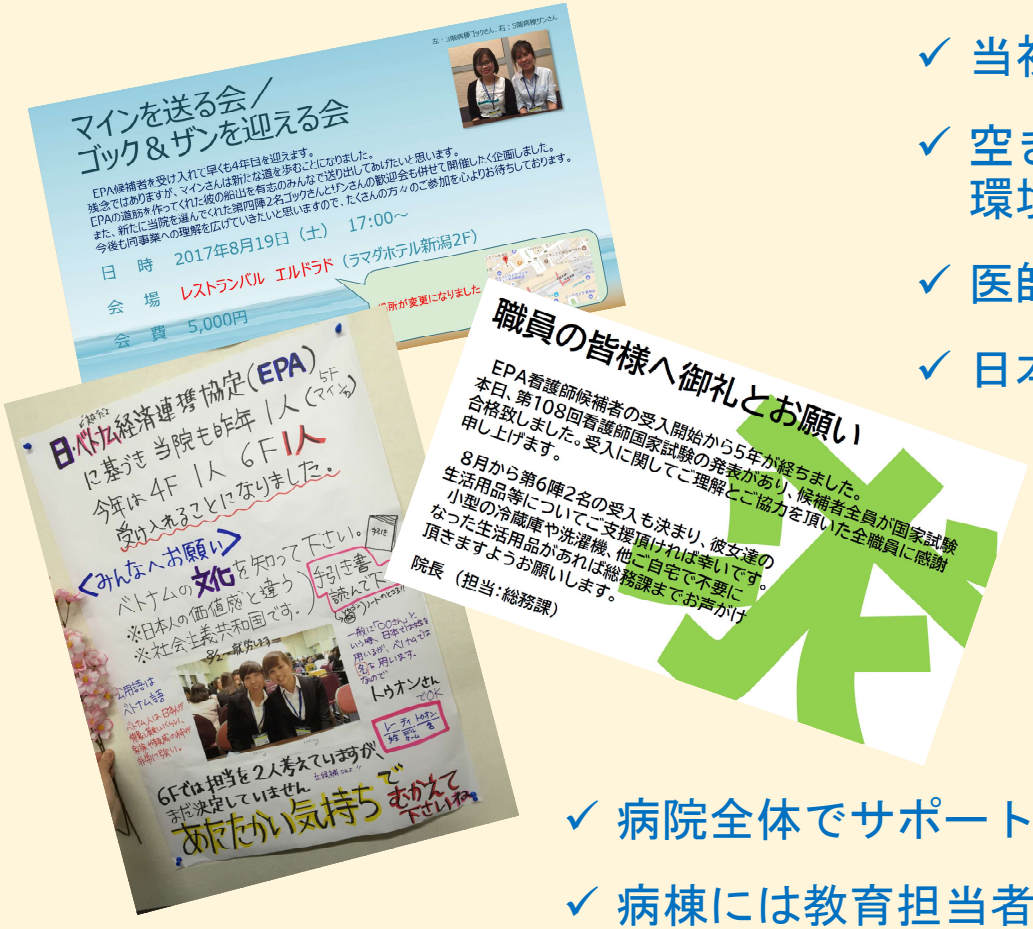
まずは、生活環境の整備から

- ✓ 病院から徒歩圏内
- ✓ 家具・家電など家財道具は職員からの寄附と病院で準備。

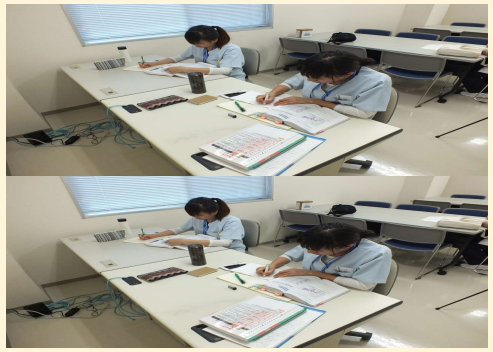
- ✓ 第3・4陣候補者は各回、女性2名のマッチングとなった為、戸建住居にて共同生活。
- ✓ 合格後は独り暮らしへ移行する（2019年４月～）。

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

職員周知・学習環境整備



- ✓ 当初は実習生と学習室を共有
- ✓ 空きスペースを利用し集中できる環境へ変更
- ✓ 医師他職員を講師として個別指導
- ✓ 日本語講師の活用



- ✓ 病院全体でサポートチームを発足
- ✓ 病棟には教育担当者を配置

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

候補者の一日（資格取得前）

就労開始後１年目（８月～１２月末）

日本語学習
／週２回

AM／病棟勤務	休憩	PM／学習時間

国家試験前（１月～国家試験直前）

AM／自己学習	休憩	PM／自己学習

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

候補者の一日（２年目以降）

就労開始後２年目（国家試験受験後）

日本語学習
／週２回

AM／病棟勤務	休憩	PM／病棟勤務

国家試験前（９月頃～）

AM／自己学習	休憩	PM／自己学習

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

就労開始後の生活支援

とにかく、孤独感を感じさせないように！

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

受入施設間のネットワーク構築

候補者間・担当者間で取組事例や課題について情報交換

於：社会医療法人嵐陽会　三之町病院

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

費用負担（一人当り初年度概算／千円）

契約締結・更新関連	１５０
住居契約関連	１００
住居負担	３５０
日本語教育関連	１００
国家試験関連	８０
他雑費	２０
合　　計	８００

現地説明会費用、教育担当者等の日本人職員関連費用は含まない。

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

現状の課題

- 日本語力（会話・記録）
- 新たな生活リズムへの対応
- 新たな目標の設定

- 資格者として自立させる為の体制整備
- 当初１名の受入から６名へ増員への体制整備

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

ここまで続けてこられたのは、

- 候補者一人一人の努力
- 職員の理解と協力
- 国際厚生事業団の支援・受入施設との連携

どれが欠けても成立しない。三位一体となり連携することが必須である。

新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

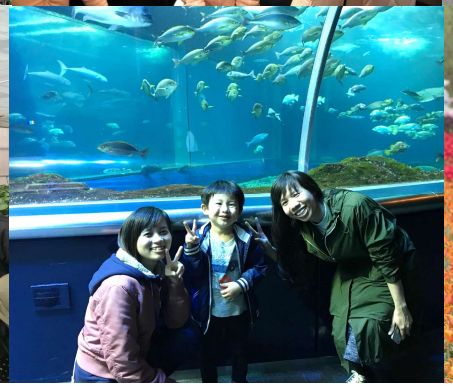
今後も本事業を継続するために、

- 第一目標のクリア
  - 看護師国家試験を合格させる

- 第二目標の再確認と共有（合格後）
  - 日本語力の向上
  - 資格者としての自立支援

新潟臨港保健会

HARD-OFF



新潟臨港病院
社会医療法人 新潟臨港保健会

ご清聴ありがとうございました